

くれなるの蟹追ひつめてかなしめり

野本 京

俳句を始めて好きになった言葉がある。蜘蛛、蛇、
蜥蜴、海鼠など、気持悪くて逃げていた物たち。季語
としてのその字面じづらの美しさに惚れて、いつの間にか実
物も、じつと眺めていたものとなった。蟹は子供の
頃からのお友達。おしんこで釣って戯れていた。

昭和五十七年作